

第1回 阿賀野市総合計画審議会 議事概要

1 会議の概要

日 時：令和4年10月11日（火）午後2:00～4:30

場 所：阿賀野市役所 別館3階302・303会議室

出席者：【委員】

遠藤委員、佐々木委員、杉崎委員、武田委員、葦澤委員、長谷川委員、堀委員、吉田委員

【市】

菅原総務部長、田村産業建設部長、大橋商工観光課長

事務局：企画財政課（西潟課長、星課長補佐、長峰係長、栗田主任、二瓶主事）

2 議事

- (1) 会長及び副会長の互選について
- (2) 諮問書の交付について
- (3) 現地視察（安田瓦ロード -地方創生関係交付金事業-）
- (4) 阿賀野市総合計画の進捗状況について（施策・基本事業評価の結果報告）
- (5) 阿賀野市総合計画の一部指標に関する訂正について
- (6) 地方創生関係交付金事業の進捗状況について
- (7) 阿賀野市過疎地域持続的発展計画について
- (8) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業の報告について

3 発言の内容（主な意見等（○：委員、●：市））

- (1) 会長及び副会長の互選
→武田委員を会長に、遠藤委員を副会長とすることを決定
- (2) 諮問書の交付
→田中市長より武田会長に対し諮問書を交付
- (3) 地方創生関係交付金事業を活用した「安田瓦ロード」の現地視察
→対象事業の安田瓦ロードへの現地視察を行い、商工観光課より昨年度までの進捗状況と今後の予定を説明

(4) 阿賀野市総合計画の進捗状況について（施策・基本事業評価の結果報告）

≪地域医療体制の充実≫

○「かかりつけ医」の定義を確認したい。また、「かかりつけ医」となる受け皿の拡充へと繋がるような施策、市内開業医を増やす環境を講じる必要がある。

●「かかりつけ医」の定義は特に定めてはいないが、考え方として常時診察等から普段の健康管理を含めて関わり合いを持ち、僅かな変化等にも気づいてくださるような医師を「かかりつけ医」として捉えている。（企画財政課企画係長）

≪防災減災体制の充実≫

○「地域防災力の強化」の関係指標で令和3年度の数値が減少している。今年8月に村上方面等で大きな水災害も発生しており、各自治会での防災意識の向上が求められる中、今後どのような方向性及び目標を持って取り組みを進めていくのか。

●現在の取り組みとして、自主防災組織の立ち上げについて各自治会長へ働きかけを行っている。また、自主防災組織の立ち上げに加えて、有事の際に機能する組織作りへと繋がるよう活動推進も行っている。広く効果が得られるよう今後も取り組みを強化してゆきたい。（総務部長）

○行政と連携を取りながら自治会の防災機能や意識の向上を図ることで、よりよい地域発展へと繋がるため取り組みを進めてもらいたい。

≪公共交通の充実≫

○阿賀野市外からの交通手段について、バスの減便による不便が目立つ。高齢化が進む今日、公共交通機関の不便さは住みにくさへと繋がる。市が新潟交通等へ介入した経緯はあるか。

●昨年の秋、新潟交通観光バス株式会社からコロナ禍による乗客数の減少により、水原・新潟間の路線存続が困難となっている現状説明を含めて、補助金等の手立てを講じて欲しいと要望があった。

これを受け、市議会にバス会社への補助金交付を提案し、今年度に補助金交付を予定している。今年度限りの支援にはなるが運行支援により、運行便の確保に繋がっている。また、水原・五泉間の路線については、市が従前から補助金を交付して路線を維持している。今後も事業者と協議を重ね、路線の維持を図ってゆきたい。（総務部長）

○より利便性が上がるようお願いしたい。

≪全般≫

○コロナ禍における想定外の社会的要因により、予め設定した目標値へは到底及ばない指標（例えば観光客数等）が生じているが、原則目標値は変更せずに評価を行うのか。

●コロナ禍であっても、それを踏まえた上で評価を行う。予め設定している目標値に向かい、改めて取り組み自体を進めてゆくこととなる。ただし、原因についてはコメント部分で詳細な分析を行い、対策を図り取り組みを支援していくものである。（企画財政課企画係長）

(5) 阿賀野市総合計画の一部指標に関する訂正について

→事務局より総合計画の一部指標に関する訂正について説明し、質疑なく承認された。

(6) 地方創生関係交付金事業の進捗状況について

≪地場産業「安田瓦」を核とした交流人口拡大・就労促進事業≫

○交付金を活用した安田瓦協同組合社屋建替えに当たり、社屋内研修室の活用方法と今年度の訓練校生について詳細を説明。

現在安田瓦協同組合では、冬期間中に民間倉庫を借用し安田瓦職業訓練校を開校している。社屋の建替え後は、安田瓦協同組合研修室を活用して訓練校生徒を受け入れてゆく。今年度は6名、新潟市内事業所からの入校生が確定している。

○観光拠点の一つとなる道の駅が完成したことから、観光スポットへの回遊を誘うPR拠点としてより取り組みを進めて欲しい。

道の駅構内に設置されている二つの画面には、主に河川状況や交通状況が映し出されており観光に関する情報が見受けられない。国土交通省施設でもある道の駅だが、阿賀野市情報館という位置付けでもある為、市のPR用として二つの画面を活用できないものか。

●画面の内一つは道路、片方は河川状況を映し出している。また、僅かではあるが観光情報も映し出している。今後はより観光情報の露出を高められるよう、積極的に新潟国道事務所との打ち合わせを行いたい。（産業建設部長）

●現在は道の駅コンシェルジュブースのモニターへ阿賀野市観光協会が作成したイメージビデオを流している。散在している多くの観光スポットは、線で繋がるイメージが薄く情報発信不足を痛感している。今後は観光スポットが螺旋で繋がるモデルコースのPRに力を入れてゆきたい。（商工観光課長）

○安田瓦ロードの来訪者数のカウントについて、具体的な方法をお聞かせ願いたい。安田瓦ロードにカウンターが設けられているのか。

●来訪者数については、様々な入込者数の県調査があり、基準を設けて各関係施設等へ照会しているもの。安田瓦ロードについては、カウンターは設けられていない。(商工観光課長)

○令和3年度ではコロナ禍によりイベント開催が出来なかったが、実施できたら来訪者数の変化は大きく、効果も大きいと感じた。

(7) 阿賀野市過疎地域持続的発展計画について

○「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」は10年間の時限立法としているが、阿賀野市の過疎計画は5年間で実施してゆくのか。また、資料8の策定ポイント②にある笹神地域の人口2025年7,048人という目標設定に対して、現在笹神地域の人口はどれ程か。

●計画としては5年間で進め、5年後に計画前半部分の反省を活かした新たな計画を策定する予定である。

現在の笹神地域人口については、年々減少しており現在7,000人程である。(企画財政課企画係主事)

○コロナ禍において痛手を負った旅館業は笹神地区に集中している為、過疎指定に伴う財政措置の一つにある「条例に基づく課税免除や税制特例措置」の一環で固定資産税の減免、アフターコロナへの集客を目標とした設備投資においては特別償却(割増償却)を認める等の対策が必要と考える。

○笹神地域の人口減少に伴い農業者人口も減少しており、農業に限ったことではない。管内農協でも農業、商業、観光の様々な部分で地域活性化に向けた取り組みを行っているが現実には厳しい状況である。計画を活用し、より具体的な取り組みを進めていただきたい。

○これから具体的な取り組みを進めていく過程で、これら意見を反映したものを示していただきたい。

(8) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業の報告について

質疑なし